

2021年08月06日

日本の国際報道の問題点(ホーキンス)

この文書は下記表題のファイルを要約紹介したものである。詳細を知りたい方はリンク先をあたっていただきたい。

2021/05/23「東洋経済 ONLINE」

「メディアの偏った報道」解消に挑む阪大教授の志

データで浮かび上がる日本の国際報道の問題点

大阪大学教授
ヴァージル・ホーキンス

研究の目的と方法

2016年、ホーキンス教授は「報道されていない世界」の情報を分析し、伝えるメディア・プロジェクトを立ち上げた。

その名前が「グローバル・ニュース・ビュー」(Global News View: GNV)である。

GNVでは、読売、朝日、毎日の3紙の国際ニュースをピックアップする。

地域ごと、トピックごとに分類し、それぞれの記事の分量や扱い、報道内容の三段階評価(一、0、+)で色分けする。

これにより国際報道の傾向を分析し、日本のメディアの現状を浮き彫りにしようと試みた。

結果

1. 報道の量と広がり

日本の新聞の国際報道は、ニュース全体の10%前後だった。アメリカのテレビ報道では国際ニュースが15~20%とされる。

量が少ないだけでなく地域的な偏りもある。アフリカのニュースが占める割合は、日本の新聞では2~3%、欧米では6~9%である。

2. 自国中心主義に基づく報道バイアス

まず、日本のメディアは、「被害者に日本人がいるか」「その出来事と日本人にはどんな関わりがあるのか」を考える。

ついで、日本のメディアは、欧米メディアの報道を追いかけ、欧米メディアの目線で考える。

アフリカの出来事なのに、ニューヨークやワシントンから「アフリカのこの問題について、アメリカ当局はこういう見解を示している」といった伝え方をする。

3. 高所得国中心主義

ほかにも問題点はある。

まず、貧困国であればあるほど、報道されない。これは鉄則だ。

次に、人種的な問題がある。まずは日本人かどうか、その次は白人かどうかだ。

変形された人種的な問題もある。たとえばアメリカに住んでいる黒人は注目される。ブラック・ライブズ・マター運動は日本でも注目された。

アフリカの黒人は？

アフリカでは多くの黒人が亡くなっても注目されない。

このようなことでは、日本の国際化などまったくおぼつかない。

考察

1. この現状をどう変えるべきか、方法はあるか

すごく難しい。今後はますます、解決が難しくなる。

あれこれの問題の前提として報道のビジネスモデル自体が崩壊しつつあること、「ニュースはタダで見るものだ」という考えが報道を飲み込もうとしている危機的状況だ。

これが進めば国際報道の現場はさらに劣化が進み、貧者と劣者はますます貶められるようになる。

これらへのトータルな対応が何にも増して急務だ。

2. 著者たちの気構え

大事なところなので、そのまま引用させていただきます。

どうやって、少しでも多くの人に見てもらおうか。それが大きな課題ですね。もう1つは、複雑さを大切にしていこう、ということです。シンプルに、わかりやすく、ひと言で何かを言い表せば、「なるほど」と思う人はいるでしょう。池上彰さんのように。しかし、国際社会で起きている出来事は、そんなに単純ではありません。GNVの編集原則の1つは「複雑さを犠牲にせずに分かりやすく書く」ということです。難しさや複雑さを犠牲にしたら意味がありません。それどころか、事実と違うものが認識されてしまう可能性があります。

.....

ホーキンスさんがそれとなく言っているのは、

欧米諸国のメディアが欧米中心主義で、金持ち優先思想で、白人優先思想だということです。

この文章が密かに言っているのは、

もっと情けないのは日本のメディアで、その3つに加えて**欧米追随主義**で、**金持ち追随思想**で、**白人追随思想**だということです。最悪です。

私たちは胸の中で、つぶやかなくてはなりません。

それは騙されているのではないか？

それは追随主義ではないか？ それは「名誉白人」の思想ではないか？

私たちはひょっとして自分の(アジアやアフリカや中南米の、貧しい、有色の)仲間を攻撃していないか？